


シリーズ



早川 功

令和5年(2023) 2月28日

click  [Isao Hayakawa 集まれ合唱!](#)
facebook公開グループ「集まれ合唱！」
に連載したものをまとめました

日本の合唱曲で、老若男女を問わず愛唱されている佐藤眞作曲の「大地讃頌」。凡そこれほどあらゆる場面で歌い継がれてきた作品は他に存在しないでしょう。私自身いつから歌っているのか、いつ覚えたのか何回歌い指揮したのか覚えていないほど。ただ「この曲だけ」が独り歩きしていることに作曲者を含め懸念を示している者も少なくない。

この作品は1962年、当時まだ芸大専修科の学生であった佐藤眞氏に日本ビクターが委嘱したカンタータの終曲です。歌声運動が高まる中、新進作曲家によるかつてない規模の壮大な作品をレコード化するという企画でした。

NHK交響楽団と東京混声合唱団、そして指揮には当時両団体の指揮者であった小澤征爾による録音初演が予定されました。しかしその年の暮れ小澤征爾はN響との間に軋轢を生み、日本から去るという事件が起きたため、初演はお蔵入りになってしまいます。

陽の目を見たのは1967年、小澤に替わり指揮を引き受けた岩城宏之によって録音されたレコードで、同年の芸術祭の参加作品として発表されたことによります。その時の題名はカンタータ「大地讃頌」でしたが、全体の構成を考え後に佐藤眞により「土の歌」に改名されています。

大木敦夫は広島出身の被爆体験者で、カンタータのテーマは原爆による破壊と喪失から大地の持つ力と恵みを受けての復興、永遠の平和を願うというもの。クリスチャンであった大木は「土」や「大地」を“神”になぞらえていたとも言われています。作品には原爆による悲惨な状況の描写などもあり、全体は決して明るい作品ではありません。それだけに全てが浄化され希望を与える終曲が聴く人の心をつかまえ、歌ってみたいという声が高まったのです。

ここから作曲者自身による「土の歌」のアップデートが始まります。初演版はオーケストラが部分的に4管編成になる大きなもので、合唱の調性も高く、アマチュアには演奏至難な部分があったことからオーケストラを2管編成に縮小、さらにピアノ伴奏による版が作られます。その際佐藤氏はいくつかの曲の調性を下げ、声部も減少した「アマチュア・バージョン」を発表しました。それが1970年。現在歌われているバージョンの原型ということになります。

その後1982年にオケ版改訂、2000年、2009年にピアノ版が改訂され現在の版となっています。さらに2008年、早稲田グリークラブの委嘱による男声合唱とピアノによる版も作られています。そんな中で全曲ではなく、歌いやすくなった終曲の「大地讃頌」が独り歩きを始めます。この曲だけが切り取られ、中学校の合唱祭や卒業式、教科書にも掲載され授業でも歌われるようになり、一般の合唱祭などでも合同合唱に採り上げられることが日常的になったのです。大木敦夫が詩に籠めたある種宗教的な意味あいはそのここではほとんど重視されていないのではないか、中学生に共感できる内容なのかということが作曲者を含め、多くの関係者の懸念とされてきたというわけです。

ここでは早稲田グリークラブによる男声合唱版「土の歌」全曲を採り上げます。2015年の東西四連で指揮は小久保大輔、ピアノは清水新^{あらた}。小久保氏は東京コラリアーズを立ち上げ、昭和の合唱界をリードした福永陽一郎氏の孫にあたります。音大では管楽器（トランペット）を専攻し、吹奏楽、オーケストラの指揮者としても活躍していますが蛙の孫はやはり蛙で、合唱指揮に於いても現在最も信頼される存在の一人になっています。ピアノの清水氏も合唱指揮者として母校の国立音大カンマーコールを率っていますが、ピアニストとしての力量は並々ならぬものがあり、ここでの多彩な表現力はこの作品が本来オーケストラとのカンタータであることを再認識させてくれます。

男声合唱のためのカンタータ「土の歌」

作詩：大木敦夫

作曲：佐藤眞

指揮：小久保大輔

ピアノ：清水新^{あらた}

合唱：早稲田大学グリークラブ



<https://www.youtube.com/watch?v=AN7kPAZ4T1k>

長い歴史を誇る早稲田グリークラブは福永先生が率いていた昭和の最盛期に比べると人数も半減し、野生味が減少したように聴こえます。しかしその分純正な和声感が緻密になり、声量に頼らず合唱としての質的向上はアップデートされ続けているとも感じます。

小久保氏はこの作品の詩の重みを十分に咀嚼した上で、決して表面的にならず、平和を望む一種宗教的なカンタータとしてのフォルムを築いています。その上でこそ生かされるのが本来の終曲「大地讃頌」なのでしょう。そう感じる素晴らしい演奏だと思います。

この投稿企画は恩師・福永陽一郎に始まり、そのお孫さんであり長年の友人でもある小久保氏の演奏で締めると言う極めて個人的な内容であったことをご容赦願って終了させていただきます。

(完)

【シリーズ バックナンバー】

- ▶ 1 男声合唱組曲「枯れ木と太陽の歌」
- ▶ 2 男声合唱組曲「月光とピエロ」
- ▶ 3 男声合唱組曲「柳河風俗詩」
- ▶ 4 女声合唱組曲「美しい訣れの朝」
- ▶ 5 女声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」
- ▶ 6 混声合唱組曲「嫁ぐ娘に」
- ▶ 7 混声合唱、ヴィブラフォン、ピアノのための「動物の受難」
- ▶ 8 混声合唱組曲「島よ」
- ▶ 9 男声合唱組曲「水のいのち」
- ▶ 10 男声合唱のためのカンタータ「土の歌」

[Back](#)[音楽・合唱TOPへ](#)[Home](#)[HOME PAGEへ](#)